

オリンピック災害おことわり連絡会は、オリンピックはスポーツや平和の祭典などではなく、災害をもたらすので、中止はもちろん世界中のどこでもいらない、という人びとが集まる連絡会です。

コロナパンデミックのさなかの森の女性差別発言や医療従事者 1 万人ボランティアなどのせいで世論は7割から8割が五輪中止や延期です。ロシア革命以来の 100 年以來の多数派になりましたが、厳しいコロナ・パンデミック(感染爆発)のさなかにそのような高揚感はありません。

オリンピック開幕の 7 月 23 日まであと二か月ちょっと。昨年、トーチリレーの直前の 3 月末に一年の延期を決めましたが、当然ながらこんな滅茶苦茶な対応でパンデミックが収まるはずもありません。むしろ今年に入って、オリパラ開催の準備を本格的に再開したことで、パンデミックを防止する対応ができなくなっているというのが現実です。東京五輪コロナと言っても過言ではないでしょう。

オリパラ組織委員会の職員4000人のうち約3割は東京都、約2割が国・自治体、約2割が民間企業やスポーツ団体からの出向者。つまり半分は公務員、税金で雇っているわけです。いいですか、1200人も都の職員が、このコロナ禍のなか、運動会のスタッフに充てられているんです。

しかも、去年はやることのない出向職員が保健所などに支援に入っていました。今年に入り保健所などコロナ関連の業務から引き上げられ、組織委員会に戻されたわけです。当然、ただでさえひっ迫する保健所の業務はさらに大変になったことが容易に想像できます。すぐにもオリパラ中止して、これら職員を住民福祉の向上や公衆衛生の維持に充てるべきです。しかし命を犠牲にして準備・実施されるのがオリンピック・パラリンピックなのです。

そのことは「復興五輪」というまやかしのキャッチフレーズにでも明らかです。3 月 25 日からはじまった五輪トーチリレーは、コロナとともに全国を回っていますが、スタートは福島第一原発の増設のために東電が建設して地元自治体にプレゼントしたサッカーグラウンド、Jビレッジからでした。このJビレッジは原発事故後は収束作業の拠点として使われて

きたこともあり、敷地内の駐車場で高濃度のホットスポットも見つかる騒ぎもありました。福島はオリンピックどごでねえ、という抗議の声を無視して、リレーは原発から数キロで帰還困難区域か広がる双葉町では、いまだ帰還町民ゼロにもかかわらず、五輪トーチリレーに合わせて再開した常磐線の双葉駅周辺も走っています。復興の姿を示したい、と。しかしその後、国は放射能を冷却した汚染水の放出を決定しました。地元では根強い反対の声があるにもかかわらずです。福島の原発が東京など首都圏のために発電し、汚染は福島に押し付けたのと同じように、東京オリパラは福島の復興ではなく東京の復興を目指すものだったことが、リレー直後の汚染水放出の決定が示しています。

そもそもオリンピックによって災害復興や住民に必要な人・カネ・モノが東京に集中しています。そして住民にとって不要なヒト・カネ・モノが被災地に集中しています。その最たるものが放射能であり、汚染水であり、中間貯蔵施設であり、放射能ウォッシュとしてのイノベーションコースト構想です。帰還困難区域であるにもかかわらず特別復興拠点区域なる名称で巨額の税金による技術開発特区の建設がすすめられているのです。ひとが住んではならない高濃度線量地帯にです。

【↓以下、時間の都合上、発言未遂】

福島だけではありません。

今日は5月8日何の日か知ってますか？古い人は77年の5月8日に機動隊のガス銃弾で東山薫さんが亡くなった三里塚空港反対闘争の「ゴッパチ」の日という記憶があると思いますが、実はゴーヤーの日なんです。ゴーヤーと言えば沖縄ですが、

【↑以上、時間の都合上、発言未遂】

先日、5月1日2日に沖縄で行われたトーチリレーに反対する取り組みに参加してきました。直前に鶴飼哲さんによる「沖縄でオリンピックを考える講演会」が那覇と名護で開催され、トーチリレーや五輪に対する批判的視点も地元メディアで報じられました。沖縄では、毎日100人以上、つまり東

京とおなじレベルのパンデミックが広がっており、蔓延防止等重点措置が発令されるなど、公道でのリレーは中止、病床満床レベルが最高の5である宮古島ではすべての関連イベントが中止になりました。宮古島は1月に島ぐるみ共闘で当選させた市長でした。おなじ離島の石垣島では日本会議系の市長によってリレーが強行されました。八重山諸島でのナショナルセレブレーションは、パラ終了後の9月から史上最大規模の自衛隊演習が九州沖縄一帯の前祝いの性格もっています。

公道でのリレーは中止されましたが、5月1日には基地容認派の市長で東海岸の辺野古の海で米軍基地の埋め立て工事が進む名護市でも、工事用の布フェンスでそこから見えなくした広い会場を約100人の走者が走るブルシット・イベントが行われました。リレー関係者1600人は東京のイベントのために沖縄県の費用でPCR検査を受けることができました。それ以外の人は自腹での検査もままならないのに。わたしたちも鶴飼さんや地元の人といっしょに朝から会場入り口で抗議のスタンディング・アピールを行いました。

【↓以下、時間の都合上、発言未遂】

走者には地元出身の芸能人のほかにも、リレースポンサーの沖縄コカ・コーラ会長や社長、沖縄TOYOTA社長、日本生命那覇支店長、沖縄ならではの米軍退役軍人、在沖米商工会会頭、(基地建設の)國場組社長、東京大会スポンサーのENEOS、JAL、ANAの社員など、商業五輪や血なまぐさい匂いの漂う陣容です。

スタンディングに参加した作業療法士は「コロナの病床使用率は100%を超えている。私たち医療従事者もしばらく検査を受けられていないのに、リレー関係者約1600人には県の費用でPCR検査を実施。医療リソースの使い方を完全に間違えている。医療現場はかなり緊迫しているにも関わらず、このようなセレブレーション・イベントをすることで、人々の気の緩みを誘発する。すぐにやめるべきだ、スタッフで働かされているみなさんも十分な感染対策を取ってほしい」と訴えていました。5月1日の労働者の団結の日のふさわしいアピールでした。

翌日5月2日は南部の糸満市の平和祈念公園を囲ってトーチリレーとセレブレーションイベントがおこなわれました。

沖縄戦で亡くなった24万人の名前が刻銘されている平和の礎のあるところ。沖縄戦最初の米軍上陸地である座間味村阿嘉島で火打ち石を使って採取した火、広島市の『平和の灯(ともしび)』と、長崎市の『誓いの火』から分けもらった火を合わせたものが、平和の礎にともっています。そこにトーチリレーの火が走ったわけです。最終ランナーは平和ガイドを目指す16歳の女性。「聖火と平和の火が重なった。世界中に平和をアピールしたい」とコメントしていますが、これも完全に五輪ウォッシュでしょう。

連日、辺野古の海の埋め立てにカヌーで抗議している作家の目取真俊さんは自身のブログ「海鳴りの島から」で、このリレーについてこう述べています。

「5月1日に名護市では、市民会館周辺を使いオリンピックの聖火リレーが行われた。西海岸では巨額の放映権料を当て込んだオリンピック利権。東海岸では増額される工事費・警備費を当て込んだ辺野古利権。さらに選挙がらみの権力亡者たちが、新型コロナウイルスで市民に不要不急の外出自粛を呼びかけながら、自分たちは世論を無視したイベントや工事を強行している。」

連休中は基地建設の工事は休んでいたのですが、ゲート前での座り込みなどはなかったのですが、すこし立ち寄ってみました。辺野古にいかれた方は知っているとおもいますが、トイレは近所のコンビニを借りるのですが、雑誌のコーナーで漫画「サイボーグ009」のベストセレクション「平和への願い編」という漫画冊子が目に留まり、暇つぶしに買いました。そのなかにアフリカの植民地独立闘争と関連付けてオリンピックを題材にした「はだしのザンジバル」という作品が収録されていました。そのなかでサイボーグ004＝アルベルト・ハインリヒがオリンピックの本質をこう述べています。

「オリンピックは平和の象徴などではない。オリンピックの花などといわれているマラソンの起源からして血なまぐさい。紀元前490年、ペルシャとギリシャによるマラソンの戦いで、ギリシャ兵士が自軍の勝利を知らせるためにマラソンからアテネまで約40キロ走りとおしたのが起源」「オリンピックに国や政治を持ち込むなどいっているが、勝ったら国家を吹奏し、国旗を掲げて国のために泣いたり笑ったりしているあいだは、そんな理想はおためごかしのきれいごとにはすぎない」

サイボーグ004＝ハインリヒは旧東ドイツからベルリンの壁を越えて亡命しようとして、体中を国境警備兵に撃ち抜かれ、体中を武器に改造された経歴を持っており、全体主義の恐ろしさを彷彿とさせていますが、東側だけでなく西側にも深刻な人種差別があることがこの作品では描かれています。この作品は 1980 年、モスクワ五輪のときのものでしたが、その 4 年後のロスアンゼルス大会以降は、国威発揚にくわえて商業主義がくわわり、現在に至っています。】

【↑以上、時間の都合上、発言未遂】

オリンピックに象徴されるメガイベントを通じて巨額の税金を民間企業に流す仕組みをセレブレーション・キャピタリズム「祝賀資本主義」である、と指摘している元オリンピックの学者、ジュールズボイコフさんは、4 月 30 日に邦訳が発売された『オリンピック 反対する側の論理』のなかで、「オリンピックは資本主義の化け物である」と批判しています。

当初「復興五輪」と称していましたが「人類がコロナに打ち勝った証しとしての五輪」となり、4 月の訪米では「世界の団結の象徴」となりました。訪米中の菅はファイザーの会長と電話会談し、五輪関係者のワクチンの確保を約束。やつらの言う団結は五輪貴族や五輪奴隷、利権企業、ナショナリズム、レイシズム、セクシズム、キャピタリズムの団結の象徴にすぎません。

あすの夕方、外苑前の日本オリンピック委員会 JOC の前から新国立競技場を回るデモがあります。17 時集合、18 時デモ出発です。ぜひ参加してください。17 日 18 日には広島でリレーが予定されており、バッハは平和の祭典を演出するため走ろうとしましたが、パンデミックによって来日がこんななのですが、私たちは広島のみ市民運動と連携して、東京でも 17 日夜に新橋 SL 広場からデモを予定しています。こちらにも参加を。

【↓以下、時間の都合上、発言未遂】

東京はまた、最大の階級格差都市のひとつでもあり、五輪貴族の享楽とともにそれを支えるぼうだいな数の奴隷～賃金奴隷～賃奴隷が、緊急事態宣言のいまでもこの祝賀資本主義を維持するために搾取されつづけています。オリン

ピックの故郷であるギリシャをはじめ、歴史を振り返れば、これらの奴隷たちによる反乱がつねに支配者を恐れおののかせてきました。

資本主義は08リーマンショックを上回るパンデミック恐慌を巨額の財政出動で支えています。日本資本主義はオリパラという祝賀資本主義で危機を乗り越えようとしています。そしてそのツケを環境破壊と人権蹂躪、そしてわたしたち賃奴隷の命によってまかなおうとしています。感染爆発を意味するパンデミックの語源はギリシャ語の「パンデモス」。パンは「すべて」という意味、デモスは「人々」です。感染が全ての人々に広がるという意味でパンデミックが使われていますが、私たちはこの祝賀資本主義に対する反乱の炎が全ての人々に感染するという意味で、「パンデモス」という言葉をつかいます。そしてこのパンデモスの反乱を準備しなければなりません。

以上